

目次

会長挨拶	1
西日本教育行政学会第5回研究会の開催	3
西日本教育行政学会第5回研究会—報告者コメント	4
シニア会員だより	5
コラム—私の最近の研究関心	8
西日本教育行政学会第47回大会のご案内（再掲）	11
事務局・編集チームからのお願い・お知らせ	12
・ 会費納入のお願い	
・ コラム等への執筆者募集	
編集後記	13

会長挨拶—イギリスの学会事情—



2024年7月 BELMAS
(懇親会、グラスゴー)

この冬は格別に厳しい寒波が続きました。皆さまのお住いの地域でも例年とは違った雪景色がみられたのではないのでしょうか。

新しい年が始まるとすぐに学校年度の終わりを迎え、会員の方々もお忙しい日々を送っておられることと思います。

「読んでもらえるニュースレター」をコンセプトに号を重ねてきた学会ニュースは、幹事さん達のご苦勞もあり今号もシニア会員からのメッセージや昨年末の研究会の振り返りなど、読んでいただきたい記事が掲載されております。ぜひお目通しください。

昨年12月には、吉田研究推進委員長の采配のもと、大規模工事で変貌を遂げる広島駅南口の広島大学きてみんさいラボにて研究会が開催されました。また、5月24日（土）には第47回大会が広島市の旧広大跡地で開催されます。個人的な話で恐縮ですが、広島大学教育学部が平成元（1989）年8月に千田町から西条へ引っ越したときの助手時代の記憶が鮮やかに蘇ってきます。滝沢大会準備委員長をはじめ院生諸氏には大変お世話になりますが、どうぞよろしく願いいたします。本学会ニュースに大会案内が掲載されておりますので、会員の方々にはぜひ路面電車で千田町へお越しいただき、活発な議論へのご参加をお待ちしております。

さて、教育行政学を対象とした研究フィールドは多岐にわたっており、研究方法も理論研究、歴史研究、実証研究等、多様です。経営学の知見からいわゆる「実践知と研究知の還流・往還」が盛んに唱えられるようになっていて、質的調査・量的調査の結果から何がしかの知見を抽出して整理する、といった手際よくまとまった研究論文や報告が多くみられるようになってきました。こうした研究動向は私が追いかけているイギリスでも同様であって、ニュースレター前号で少し触れたイギリスの教育・リーダーシップ・マネジメント学会（通称 BELMAS）における自由研究発表においても発表傾向には違いがありません。むしろ、研究者よりも学校現場に身を置く教員たちによる研究報告が増加傾向にあって、アカデミックライティングの作法やリサーチクエスチョンの曖昧さを厳しく指摘されるといった質疑応答がみられます。日本に照らして言えば、教職大学院の院生達が研究発表という名のもとで自分の学校の事例報告に終わるといった感覚に近いものがあります。（もちろんそうした研究発表の中にも刮目すべき知見が含まれているものもあるので、全てを腐しているわけではありません、念のため。）

日本における教育学領域の一般的な学会運営は本学会会員の方々にはご承知のことと思います。学会運営に関しては大規模学会では外部委託しているところもあるものの少数派で、小中規模の学会では自前の事務局や大会開催校が引き受けて頑張っているのが実情です。その予算は学会費に依存しています。ちなみに BELMAS の年会費は（1ポンド≒200円計算で一般会員 60ポンド：12000円、学

生・退職者・途上国会員 25 ポンド：5000 円) で、会員によって学会事務局 (Trustee Board) が組織され、日本の学会運営組織と類似していると言えましょう。海外の学会大会に参加した経験をお持ちの会員にはお馴染みかもしれませんが、年次大会はホテルやホールを借り上げての「大がかりなイベント」となっていて、昨年 7 月初旬にグラスゴーで 3 日間開催された BELMAS 年次大会参加費は 12 万円を超えました。参加費には金曜日と土曜日のランチとディナー、日曜日のランチ、そしていつでもいただけるコーヒー、紅茶、ケーキ、ビスケット等の料金込みとなっています。3 日間フルに研究発表が行われ、参加しなかったセッションの資料もすべてダウンロード可能という特典を享受できます。参加者は経費を所属機関の予算から支弁しているそうで、学校教員も学校予算から賄っていると聞きました。ヒト・モノ・カネの裁量が認められているイギリスならではの学校マネジメントの一端が理解できます。



ガンター教授による基調講演

シンポジウムは 3 本立てで、前回は教育政策研究で著名な Helen Gunter 教授 (マンチェスター大学名誉教授) による「生きた政治と教育リーダーシップ (Biopolitics and the field of educational leadership)」と題する基調講演に興味をそそられました。彼女の 40 年を超える研究データからの事例として、学校の入学定員枠に関連して、家庭 (= 納税者) に規定の授業料支払い能力があるのか、家庭の宗教的信仰は強いのか、あるいは世俗的なのか、

男子校・女子校・共学といった生物学上の区別をしているのか、知能テストの結果がどうだったのか等による選択と離脱の仕組みがイギリスの教育政策の仕組み、基盤形成の特徴となっているとのことで、そうした市場が導入された結果、教育行政の末端を担う CEO としての校長は、自校ブランドにふさわしくない子ども学校から締め出すこと、および自校ブランドにとってふさわしい子どもを教育することに責任を負うようになってしまった、といます。イギリスでは格差が深刻化し、教育行政に責任を負っていた地方当局は学校レベルにおける効率的なマネジメントを優先させる傾向が強まってきました。このあたりについては諸事情が複雑に絡まりあった日本の地方教育行政の姿とは異なりますが、日本でも児童生徒、保護者、教職員が様々に困った状況にあることは周知の通りです。今後もまた誌面をお借りして、私の見聞を紹介できればと思います。

2025 年 2 月 28 日

西日本教育行政学会長 高妻 紳二郎

西日本教育行政学会第5回研究会の開催

2024年12月22日（日）15時より、「広島大学きてみんさいラボ」において西日本教育行政学会第5回研究会を開催しました。本学会では大会とは別に、特に若手会員の研究促進を目的として毎年冬に研究会を開催しています。

今回の研究報告は川本吉太郎会員（広島大学教育ビジョン研究センター特任助教）にお願いしました。発表題目「日本における「非通学」による高校教育機会保障に関する研究—通信制課程に注目して—」について約1時間の報告が行われ、その後、休憩を挟んでさらに1時間にわたる活発な質疑応答が続きました。詳しい発表内容は川本会員による報告をお読みいただければと思います。

なお、今回も対面とオンライン（ZOOM）によるハイフレックス方式で実施し、対面参加18名、オンライン参加2名、合計20名の皆様にご参加いただきました。研究会終了後には広島駅近辺で懇親会も行われ、楽しいひとときを過ごすことができました。お忙しい中、ご参加いただきました皆様に厚く御礼申し上げます。

研究促進委員長 吉田 香奈（広島大学）



西日本教育行政学会第5回研究会一報告者コメント



昨年末の2024年12月22日に開催されました西日本教育行政学会第5回研究会で報告させていただきました、広島大学大学院人間社会科学研究科・特任助教の川本吉太郎です。

当日は「日本における「非通学」による高校教育機会保障に関する研究—高等学校通信制課程に注目して—」の題目で、私の博士論文全体の構想および進捗状況を報告させていただきました。今次研究会には、年末のご多忙の折にもかかわらず、対面・オンラインにて多くの先生・先輩方にご参加いただき、大変親身なご指導やご助言をいただきました。この場を借りまして、深謝申し上げます。ありがとうございました。

私の研究対象である通信制高校は、その単位認定にかかる教育活動（＝教育機会保障の在り方）において日常的な通学を必要としていない点で

注目すべきであり、従前の日本の高校教育の在り方を問い直し、再考するうえで見逃すことのできない重要な対象であると考えております。私はこれまで、通信制高校を「非通学」型学校として位置づけ、関連法令・政策・運用実態の観点から研究を進めてまいりました。今次研究会では、このような博論のキー概念である「非通学」に関わって、極めて重要なご指摘を賜りました。研究論文としてひとつの単語（概念）に込める意味やその一貫性を大切にして、博論を一つの研究としてかたちにできるよう、これからも真摯に禁欲的に精進を重ねてまいります。

末筆ながら、研究会の準備・運営を引き受けていただいた研究促進委員長の吉田香奈先生に深く御礼を申し上げます。学会員の先生方におかれましても、今後ともご指導・ご鞭撻をくださいますよう、よろしくお願いを申し上げます。

川本吉太郎

シニア会員だより

2023 年度より「シニア会員」制度が設けられました。そこで新たにシニア会員となられた先生方から近況を含めたコメントをいただいております。今号では佐竹会員にご登場いただきます。ぜひご覧ください。

本学会活動を振り返る—シニア会員反省記—

佐竹 勝利



会員の皆様、ご無沙汰しておりました佐竹です。最近では会員としての活動はほとんどできておらず、申し訳なく思っています。幸い、昨年（2024年）、第46回大会が高松大学で開催されましたので、実は研究発表と総会にそっと出席させていただきました。研究会も総会も熱気の中で運営され、久しぶりに「学会」の雰囲気になりました。有り難うございました。一部の方にしかご挨拶できませんでしたことをお詫びいたします。そしてこの場が自己紹介にもなればと思っています。

さて、この度シニア会員に認められ、会員だよりを依頼されましたが、本学会の思い出や近況を自由に書いて良いものらしいので、戸惑いながらも書いてみることにいたしました。

まず本学会のことで思い出すのは、創設の頃のことです。当時、地方における若い研究者の発表機会をという要望があり、九州大学（中島直忠教授—当時）と広島大学（名和弘彦教授—当時）の相互交流がおこなわれていたそうです。1978年11月1日（水）と2日（木）に香川大学（高松市）において開催された中国四国教育学会第30回大会の第一日目の終了後に、高松市の栗林山荘（眼下に高松の市街地を見下ろし、その向こうに屋島を臨む国民宿舎—現在は民間の施設）で、本学会の前身である「教育行政学研究会」の創設準備会が開催され、中国四国地区と九州地区の教育行政学研究者が相集い、研究会の結成と紀要の刊行について協議された、とのこと（「教育行政学研究」創刊号の「まえがき」及び第3号の学会集報などから）。私は1974年4月から高松市にある高松短期大学児童教育学科（現保育学科）に採用されておりました。ということは、会場のことなどお手伝いをしたと思うのですが、記録はなく記憶も曖昧です。高松短期大学は創立10年目という新設校で、私は採用後5年目で担当授業が多い上に学生部や広報紙の担当、サークル顧問、さらに音楽科開設（1976年）の準備作業などもあって多忙を極めていて、準備会にも遅れて出席したからでしょう。会議そのものは熱心に時には和やかに運ばれたようです。

翌年（1979）4月に「研究会」が発足し、10月に『教育行政学研究』創刊号が刊行されました。創刊号に改めて目を通してみますと、中国四国地区、九州地区それぞれから5名ずつ執筆者がお名前を連ねており、いずれの方も懐かしいです。

「研究会」の第1回大会は同年11月18日に大分県中津市ヤバケイクラブ竹別荘において開催され

ました。私は名和先生から発表のご指名があったものの、前述のように多忙な勤務の中で発表の準備はなかなかはかどりませんでした。しかも当時は原稿も発表資料も手書きでしたから手間がかかって大変でした。そんなこんなで、前日の夜に高松港から別府に向かう関西汽船の中でも原稿の加筆修正をしました。やがて豊後水道に差ししかかったと思われる頃、船が大きく上下し始めました。周りではゲゲーという人がいるし赤ん坊が泣き出すし、船内は騒然としました。私は頭を上げると戻しそうになるのでひたすら後頭部をベッドに押しつけて、船の揺れが収まることを祈りました。原稿どころではありませんでした。かなり時間がたって、やがて別府湾に入ったようで揺れが収まり、早速原稿に向かいました。もう空が白んでいました。そして別府観光港に上陸し、連絡バスを待つ間も別府駅から中津行きの列車に乗ってからも、ひたすら原稿とにらめっこでした。そして会場にともかく着きました。発表題目は「教師の就職前教育と現職教育－米国における制度的発展を中心に－」でした。卒業論文以来アメリカの教員養成制度を研究テーマにしておりましたが、現職教育が多様な広がりを見せていることにも目を向けたのです。

紀要への最初の投稿は第2号（1981年）で、タイトルは「教職遂行（能力）」を基調とする教師教育の特徴と問題点－最近の米国教師教育改革についての一考察－」でした。これは、前年、広島大学教育学部東雲分校において G.E.Dickson 教授（米国 Toledo 大学－当時）による 1970 年代当時の米国教師教育改革の動向についての講演会があり、それを扱ったものでした（注1）。

1982年4月1日には本「研究会」が「西日本教育行政学会」と改称されました。私自身はその頃日本教育行政学会における大規模な共同研究に参加する機会を得て（注2）、我が国の調査研究に取り組みました。その後の研究は、1985年4月から鳴門教育大学に採用されたこともあって、現職教員に関する調査研究を主として行い、本学会においても発表を5回（共同発表を含む）、紀要に4編（共同執筆を含む）掲載させていただきました。また、鳴門教育大学大学院では現職教員の指導をしていた関係で、彼らの研究成果発表の場として第8回大会（1986年11月15日、岡山大学）で発表を、紀要論文は3編（第9号、第24号、第27号）掲載させていただきました。学会運営に関しては、理事、編集委員、副会長、会長などのほか、2002年度には第24回大会（鳴門教育大学）の準備委員長として関わりました。しかし、2008年に鳴門教育大学を退職して高松大学発達科学部に勤務するようになってからは、学部生指導や学部・大学の運営に専念し、本学会も含めて学会活動には、申し訳ないことにご無沙汰気味になりました。

現在は高松大学も退職（2020年）して、終活など今後のことについて心の準備中というところです。他方で社会とのつながりを大切にしたいので、登校時の子どもたちの見守りボランティアのほか、地域の自治会にも参加して時々役員が回ってきています。また、ある自治体の子育て会議にも出席しています。他に、昔取った杵柄とは行きませんが週一で乗馬クラブに通っています。その体力を維持するためにもほぼ毎日ウォーキングに勤しんでいます。現役時代にはなかなか行けなかった旅行も、妻と一緒に時々楽しんでいます。

思えば本学会は数年後には創立して半世紀になりますね。これまで諸先生方はもちろん、会員の皆様には一方ならぬお世話になりました。若い頃には先生方や先輩諸氏に特にお世話になりました。有

り難うございました。反省すべきは、多忙さにかまけてライフワークであったはずの教師教育研究や学会活動に時間もエネルギーもあまり充てられなかったことです。今後は、シニア会員として紀要や学会ニュースが届くのを楽しみにしながら、学会を見守って参ります。今後ともよろしくご指導いただきますようお願いいたします。

（注1）後年（1991年）、文部省長期在外研究員として米国へ行った際、同氏を訪ねてその後の動向を伺いました。当時そのような動きは既に収束に向かっていたようです。

（注2）日本教育行政学会指導行政特別委員会(代表岩下新太郎)『教職の質的向上と教育指導行政に関する総合的研究』昭和55～57年度文部省科研費補助金(総合研究A)。私は主に香川県担当。

2025年3月21日

佐竹勝利（鳴門教育大学名誉教授、高松大学名誉教授）

コラムー私の最近の研究関心

今号のコラムでは、島根大学の小早川倫美会員にご寄稿いただきました。近年の研究関心に加えて、最近の取り組みについてご紹介いただいております。ぜひご覧ください。

最近の研究関心や取り組みについて

会員の皆様におかれましては、新年度を迎えて慌ただしくお過ごしのことと存じます。

このたびは、最近の研究関心について学会ニュースにて発信させていただく機会をいただき大変嬉しく思います。

お見苦しいところもあるかと存じますが、どうぞよろしく願いいたします。

1. 近年の研究関心について

これまで、教育行政分野において、とりわけ教育財政・教育費を対象として、それらが教育の受益者だけではなく幅広く社会におけるインパクトは如何なるものか、を含めて研究を進めてまいりました。近年は、高校教育段階の教育費、さらには教育費をめぐる諸政策に焦点を当てながら研究を行っております。高校教育段階に着目しながら研究を進めていた当初から気になっていた動向が、昨今の政治的な動向と合わせる形でも登場した「高校無償化」です。

2010年、高校教育段階への就学支援として登場した公立高等学校授業料無償制(旧制度)ですが、高校教育は義務教育段階と高等教育段階の間に挟まれていたことから、ようやく光があてられるようになり、当時は高校教育への本格的な支援が始まったとする雰囲気があったようにも思われます。このような制度が進められることは歓迎されることではありますが、これまでのような中央・地方の関係で進めることができるのか、また、都道府県ごとに高等学校の供給状況が大きく異なる中で、国全体として高校無償化が実施されることをどのように捉えていく必要があるのか、ということに特に関心を持っておりました。

高校無償化が全面的に進められたことを教育機会の拡大として単純に捉えることでは、持続的な教育政策として機能しうるものか否か、評価するには不十分であると考えておりますし、教育行政学においても慎重に議論を進めることが必要であると考えます。このような研究関心から、現在において取り組んでいるのは、長らく地方政府に委ねられてきた高等学校教育政策とは異なる状況が進展しつつあることを受けて、高等学校教育費政策にもたらす影響について考察しております。

また、個人研究と並行して、LKHAGVA Ariunjargal 会員、黒木貴人会員、張磊会員とともに共同研究として、「教育」「健康」の一体的な保障に向けたガバナンス構築に関する研究に取り組んでおります。現在、「教育」「健康」の一体的な保障を目指した分野間連携として、WHO を中心とした国際機関の協働によって実施されている HPS (Health Promoting School) に着目しております。とりわけ、東アジアにおいて HPS の進展が顕著にみられる中国に足を運び、如何にして教育分野と他分野は協働しながらガバナンスを構築しているのか、について考察を進めているところ

です。昨今では、2024年3月に北京市への調査、2024年11月に浙江省への調査を行いました。HPSの基本的な実態や課題を北京調査では垣間見ることができた貴重な機会でもあり、浙江省では先進的なHPSの取り組みとともに行政分野の連携・協働についても今後の示唆を得ることができました。HPSの実地調査は今年度も予定しており、新たな知見を得ることができることを共同研究メンバーと楽しみにしているところです。



2024年3月北京調査の一コマです。
なんと、学校の中に歴史ドラマさながらの中華庭園があり、驚きました。

2. 最近の取り組みについて

ここでは最近の取り組みについて、ご紹介いたします。

研究関心と関連しておりますが、授業や各種研修において念頭に置いているのは、教育をめぐるガバナンスについてです。周知の通り、ガバナンスにはさまざまな概念があり、先行研究においてもガバナンス自体を危惧される指摘もありますので、ガバナンス概念そのものを網羅しながら授業で取り扱うことは難しいことでもあります。しかしながら、教育をめぐる構造が多様化する昨今の状況を踏まえると、学校を主軸とした仕組みや制度を取り扱うことのみならず、教育が形成され、実施されるには多様な主体がかかわっていること、それらアクターのかかわりについても考えることが重要であるとの視点に立っています。

私自身の経験を振り返ってみますと、初めてガバナンスという言葉に触れたのは学部時代に受講した小松茂久先生の「教育制度論」でした。その当時は、そんなもんなんだという認識でしかありませんでしたが、山陰の地に着任し、学校だけではなく多様なアクターのかかわりによる教育を不可欠とするような状況を目の当たりにし、改めて、教育ガバナンスとしての在り方を考える機会を得ることができたことも反映されているように思います。「教育の社会的・経営的事項」にかかわる授業では、ガバナンスの視点を踏まえながら構成されているテキスト（『基礎から学ぶ教育行政学・教育制度論』昭和堂、2024年）を用いながら進めております。

また、所属専攻の専門科目では、多角的に教育・学校理解を図るために必要な教育実践を支える社会的・制度的・経営的な事項について複眼的・論理的に考察できることを目的とし、学生自らが

課題設定をした上で調査・研究した内容に関するプレゼン、ディスカッションを行う演習形式の授業を設定しています。発表することが目的ではなく、教育政策、教育経営、教育制度、学校経営についての課題意識を持つことに加えて、現状を適切に把握しながら改善を志向することを目指しています。その際の手がかりとして、テキスト（『新・教育制度論 [第2版] 教育制度を考える 15の論点』ミネルヴァ書房、2023年）を用いて、近年の改革動向に焦点を当ててテーマを設定して取り組んでいます。

受講学生はテーマに関する現状把握を行いながら、どのような点を課題とするのか、それはなぜ課題となるのか等、これまでの経験から当然視されてきた教育、学校の機能や役割を見直し、再評価するきっかけとなっており、苦しみながらも真摯に向き合っている様子がみられます。毎回のディスカッションも回を重ねるごとに多様な意見が出るなど、毎回の方向性が定まらないことも、授業者としては逆に興味深く感じているところです。



最近の取り組みとして、2つの教育活動について簡単にご紹介させていただきました。これからも引き続き、よりよい授業となるよう精進する所存です。

このたび学会ニュース原稿執筆の機会をいただきましたこと、重ねて御礼申し上げます。今後とも何卒よろしくお願い申し上げます。

小早川 倫美（島根大学）

西日本教育行政学会第 47 回大会のご案内(再掲)

2025 年 1 月 16 日

西日本教育行政学会会員
各位

西日本教育行政学会第 47 回大会準備委員会
委員長 滝沢 潤

西日本教育行政学会第 47 回大会のご案内

大寒の候、会員の皆様にはますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

さて、西日本教育行政学会第 47 回大会を下記の要領にて開催いたしますので、ご案内申し上げます。

つきましては、ご多忙のこととは存じますが、万障お繰り合わせの上、会員の皆様の研究発表の積極的なお申し込みとともに、お一人でも多くの方のご参加を心よりお待ちしております。

記

1. 大会期日 2025 年 5 月 24 日 (土)
2. 大会会場 広島大学 東千田キャンパス
東千田地域連携フロア SENDA LAB 多目的スペース
(広島県広島市中区東千田町 1 丁目 1-89 総合校舎 L 棟 5 階)
3. 大会日程 (予定)

10 : 30 ~ 12 : 00	役員会 (5 階 会議室 3)
12 : 30 ~	受付 (多目的スペース前)
13 : 00 ~ 16 : 00	研究発表 (多目的スペース)
16 : 10 ~ 17 : 00	総会 (多目的スペース)
18 : 00 ~ 20 : 00	懇親会 (流川町周辺で開催予定)
4. 参加費 会員・臨時会員：2,000 円 懇親会費：6,000 円 (学生：3,000 円)
5. 研究発表の申込 ~~—3月15日(土)までに以下のリンクをクリックし、Google フォームにてお申し込みください。~~
~~—申込リンク (Google フォームに遷移します) : <https://forms.gle/hLTyqNtpJrofWkSW6>~~
(お申込は終了いたしました。)
6. 研究発表時間 個人研究：15 分 質疑応答：10 分
共同研究：原則として 1 人 15 分程度×人数、質疑応答：20 分
7. 大会プログラム 大会プログラムは 4 月中旬までにお届けする予定です。
8. 連絡先 西日本教育行政学会第 47 回大会準備委員会事務局
事務局長：川本 吉太郎 ytaro219@hiroshima-u.ac.jp
9. その他 宿泊の予約等につきましては、大会準備委員会では手配いたしかねますので各自でお願いいたします。なお、懇親会は広島市中区流川町周辺での開催を予定しております。広島駅あるいは懇親会会場周辺のホテルのご予約をおすすめいたします。(インバウンド需要の増加等により、大会開催時期の広島市内のホテルは予約が殺到し、料金も高騰することが予想されます。早めのご予約をお勧めいたします。)
大会へのご要望・ご意見等がございましたら、大会準備委員会までお願いいたします。

以上

事務局・学会ニュース編集チームからのお願い・お知らせ

・ 会費納入のお願い

学会費未納の方はお支払いただきますようお願いいたします。会費は年額 6,000 円（学生会員は 3,000 円）となっております。また、過年度分を未納の方は、それにつきましてもよろしくお願ひ申し上げます。

郵便振替口座番号 01760-9-165544

加入者名 西日本教育行政学会

*会則で「3 年以上会費納入を怠った者は、本会から除名されることがある」（第 7 条）と規定されておりますので、申し添えます。

・ コラム等への執筆者を募集しています！

前号より学会ニュースを一新いたしました。今後、学会ニュースは年 2 回の発行を予定しております。いくつかの「コラム」企画を「学会ニュース編集チーム」にて検討しております。次号では「シニア会員だより」だけでなく、「教育行政学関連科目の授業紹介」や「私の最近の研究関心」を掲載する予定です。コラムに寄稿いただける会員を募集しております。自薦・他薦は問いませんので、ぜひご協力のほどよろしくお願いいたします！なお、「ぜひこの内容を会員の先生方にお伝えしたい！」という企画案のご提示もお待ち申し上げます。

編集後記

学会ニュース第 69 号をお届けいたします。今号も「シニア会員だより」として佐竹勝利会員にご寄稿をいただきました。「シニア会員だより」は、これまでの西日本教育行政学会の歴史の一端に触れることができます。また、コラムとして「私の最近の研究関心」の第 2 回を企画いたしました。その他、第 5 回研究会の開催報告など掲載しております。どれも読み応えのある内容になっております。今回ご執筆いただいたすべての会員の皆様にこの場をお借りして厚く御礼申し上げます。

次号以降も充実した学会ニュースとなるよう編集チーム一丸となって取り組みますので、会員の皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

(原北祥悟)

【学会ニュース編集チーム】

原北 祥悟（崇城大学）、小早川 倫美（島根大学）、黒木 貴人（福山平成大学）
唐澤 健（教職員支援機構）、橋本 拓夢（広島大学大学院・院生）